

平成 28 年度全国水産試験場長会全国大会(山梨)

要 録



期 日：平成 28 年 11 月 17 日（木）

会 場：ベルクラシック甲府

山梨県甲府市丸の内 1-1-17

主 催：全国水産試験場長会

目 次

1	大会の構成	
1)	大会日程	1
2)	大会次第	1
3)	出席者名簿	2
2	挨拶	
1)	会長	3
2)	来賓	5
3)	開催県	7
3	報告	
1)	平成27年度活動結果および平成28年度活動計画について	9
2)	国への要望「地域の抱える懸案事項」等について	10
4	情報交換	
1)	豊かな瀬戸内海再生に向けた取組について	35
5	話題提供	
1)	山梨県における水産業と水産試験研究の現状について	41
6	優秀研究業績全国水産試験場長会会長賞表彰式	
1)	平成28年度全国水産試験場長会会長賞表彰業績	45
2)	審査委員長経過報告・講評	45
3)	副賞設立の経緯、趣旨	46
4)	会長賞受賞記念講演	
	静岡県	50
	京都府	59
	北海道	68
7	現地意見交換会	79
8	関係写真	80

1 大会の構成

1) 大会日程

大会行事	開催日時・開催場所
全国大会	平成 28 年 11 月 17 日 (木) 13:30~17:00 ベルクラシック甲府 (甲府市丸の内)
現地意見交換会	平成 28 年 11 月 18 日 (金) 8:30~14:30 山梨県水産技術センター忍野支所 富士湧水の里水族館

2) 大会次第

- 1 開催日時 平成 28 年 11 月 17 日 (木) 13:30~17:00 (大会)
11 月 18 日 (金) 8:30~12:00 (現地意見交換会)
- 2 開催場所 (大会) ベルクラシック甲府 3F エリザベート
(現地意見交換会) 山梨県水産技術センター忍野支所 ほか
- 3 日 程
11 月 17 日 大 会
12:30~ 受 付
13:30~ 開 会
13:30~ 挨 拶
会 長・来 賓 (水産庁、山梨県)
13:50~ 報 告
平成 27 年度活動結果および平成 28 年度活動計画について
国への要望「地域の抱える懸案事項」等について
14:15~ 情報交換
豊かな瀬戸内海再生に向けた取組について
[兵庫県農林水産技術総合センター 技術参与 反田 實]
14:45~ 話題提供
山梨県における水産業と水産試験研究の現状について
[山梨県水産技術センター 所長 加藤 肇]
15:30~ 会長賞表彰
審査委員長経過報告・講評
会長賞表彰式
会長賞受賞記念講演

17:00 閉 会

3) 出席者名簿

平成28年度全国水産試験場長会全国大会出席者名簿

開催日 平成28年11月17日：パルクラシック甲府

	機関名	役職名	氏名
国 等 関 係 機 関	水産庁増殖推進部	部長	保科 正樹
	〃	課長補佐	今治 和人
	国立研究開発法人 水産研究・教育機構	理事	遠藤 久
	〃	研究主幹	渡邊 朝生
	(一社) 全国水産技術者協会	会長	川口 恭一
	(一社) 全国遠洋沖合い釣り漁業協会		
	(一社) 漁業情報サービスセンター		
(一社) マリノフォーラム21	技監	白石 學	

○海面

北海道	(地独) 北海道立総合研究機構 水産研究本部 中央水産試験場	本部長兼場長	野俣 洋
	(地独) 青森県産業技術センター 水産総合研究所	所長	野呂 恭成
東 北	岩手県水産技術センター	所長	煙山 彰
	宮城県水産技術総合センター	所長	武川 治人
	福島県水産試験場	場長	尾形 康夫
	茨城県水産試験場	場長	益子 知樹
北部日本海	秋田県水産振興センター	所長	柴田 理
	新潟県水産海洋研究所	所長	丸山 克彦
	石川県水産総合センター	所長	五十嵐 誠一
東 海	千葉県水産総合センター 企画調整室	室長	石黒 宏昭
	東京都島しょ農林水産総合センター 振興企画部	副参事研究員	安藤 和人
	神奈川県水産技術センター	所長兼企画資源部長	鶴岡 俊行
	静岡県水産技術研究所	所長	増元 英人
	〃	研究統括監	花井 孝之
	〃	研究統括監	岡本 一利
	愛知県水産試験場	場長	阿知波 英明
	三重県水産研究所	所長	遠藤 晃平
瀬戸内海	〃	主幹研究員	水野 知巳
	和歌山県水産試験場	場長	小久保 友義
	(地独) 大阪府立環境農林水産総合研究所水産研究部	水産研究部長	目下部 敬之
	兵庫県立農林水産技術総合センター 水産技術センター	所長	堀 豊
	〃	技術参与	反田 實
	岡山県農林水産総合センター 水産研究所	所長	萱野 泰久
	広島県立総合技術研究所 水産海洋技術センター	次長	相田 聡
	香川県水産試験場	場長	川西 敦
	愛媛県農林水産研究所 水産研究センター 栽培資源研究所	所長	塩田 浩二
	高知県水産試験場	場長	鍋島 浩
西部日本海	福岡県水産海洋技術センター豊前海研究所	所長	筑紫 康博
	大分県農林水産研究指導センター 水産研究部	次長	鹿嶋 豊郎
	宮崎県水産試験場	場長	兼田 正之
	福井県水産試験場	場長	杉本 剛士
	京都府農林水産技術センター 海洋センター	所長	山崎 淳
	〃	主任研究員	道家 章生
	鳥取県水産試験場	場長	下山 俊一
	鳥取県栽培漁業センター	所長	山田 英明
	島根県水産技術センター	漁業生産部 部長	井岡 久
	佐賀県有明水産振興センター	所長	伊藤 史郎
九州・山口	長崎県総合水産試験場	場長	柳村 智彦
	熊本県水産研究センター	所長	平山 泉
	鹿児島県水産技術開発センター	所長	佐々木 謙介
沖縄県水産海洋技術センター	所長	大嶋 洋行	

○内水面

東北・北海道	(地独) 北海道立総合研究機構 水産研究本部 さげます・内水面水産試験場	場長	小林 美樹
	〃 道東センター	主査	宮本 真人
	(地独) 青森県産業技術センター 内水面研究所	所長	工藤 敏博
	宮城県水産技術総合センター内水面水産試験場	場長	松浦 良
関東・甲信越	山形県内水面水産試験場	場長	笠原 裕
	栃木県水産試験場	場長	澤田 守伸
	群馬県水産試験場	場長	重田 英男
	埼玉県水産研究所	副所長	飯野 哲也
	神奈川県水産技術センター内水面試験場	場長	利波 之徳
	新潟県内水面水産試験場	場長	近藤 伸一
	長野県水産試験場	環境部長	沢本 良宏
東海・北陸	岐阜県水産研究所	所長	森 美津雄
	滋賀県水産試験場	場長	遠藤 誠
西日本	福岡県水産海洋技術センター内水面研究所	次長	伊藤 輝昭
	大分県農林水産研究指導センター水産研究部浅海・内水面グループ	主幹研究員	伊藤 龍星
	宮崎県水産試験場 内水面支場	支場長	稲野 俊直
開催県	山梨県農政部長	理事	西野 孝
	山梨県農政部花き農水産課	課長	原 昌司
	山梨県水産技術センター(事務局)	所長	加藤 肇
		次長	内藤 聡
		研究管理幹	大浜 秀規
	主任研究員	名倉 盾	

2 挨拶

1) 会長

あいさつ

全国水産試験場長会

会長（三重県水産研究所長）遠藤 晃平

今年 4 月から会長を務めさせていただいております三重県水産研究所の遠藤と申します。どうぞよろしく願いいたします。

会員の皆様には御多忙のところ平成 28 年度全国水産試験場長会全国大会に御参集いただきまして、誠にありがとうございます。

また、公務お忙しい中、水産庁からは保科増殖推進部長様、水産研究・教育機構からは遠藤理事様、開催県の山梨県からは西野農政部理事様、水産技術者協会からは川口会長様、その他多数の来賓の皆様の御臨席を賜り誠にありがとうございます。

本年は震度 7 を記録した 4 月の熊本地震をはじめ 8 月から 9 月にかけて相次いで上陸した台風ですとか、10 月の鳥取県中部地震など大きな災害に見舞われております。改めて被害にあわれた方々に心からお見舞いを申し上げるとともに 1 日も早い復旧復興を強く願っております。

さて、全国場長会は都道府県の海面・内水面の水産研究機関の長で構成された組織でありまして、昭和 30 年の発足以来、約 60 年に及ぶ活動の歴史があります。平成 23 年に新たに生まれ変わり、全国大会は今回の山梨で 6 回目となります。この間、全国を網羅する幅広いネットワークを構築するとともに試験研究の面から水産物の安全供給と水産業の発展に努めてきたところであります。しかしながら、昨今の水産業を取り巻く情勢は魚価安・後継者不足など厳しさが増すばかりで閉塞感さえ漂っております。また、震災復興や全国に蔓延する疾病の対策等やるべきことが山積しております。

さらに、近年猛暑や集中豪雨の多発など異常気象に見舞われておりますが、沿岸では海水温の上昇や海草の植生変化が起こっておりますし、内湾域では貧栄養の傾向が進んでおり漁業生産への影響をこれまで以上に注視する必要があります。そのため基礎資料となります海洋観測の維持拡充に向けて従来から水産庁、水産研究・教育機構に要望しておりますが、今年度から水産庁委託事業の海洋観測予算が一部拡充されましたことに感謝申し上げます。今後とも一層の配慮をお願い申し上げます。

また、和食がユネスコの無形文化遺産に登録されるとともに地域創生に向けた取り組みが推進されるなど魚食文化の維持伝承や地域活性化の取り組み等において美味しく多様な地域の水産物の安定的な供給が求められております。水産資源の持続的な利用ですとか付加価値向上など地域における研究機関の役割もより一層重要になっており、さらに機能を強化していく必要があると考えられます。

このような状況のもと、本日は限られた時間の中で盛りだくさんの議題がありますが、皆様方の御協力によりまして有意義な大会になりますようよろしくお願いいたします。

最後になりましたが、地元山梨県水産技術センターの皆様外、関係の皆様方には大変お世話になり心からお礼を申し上げまして開会にあたっての挨拶とさせていただきます。

本日はどうぞよろしくお願いいたします。ありがとうございました。

2) 来 賓

あ い さ つ

水産庁増殖推進部長 保科正樹

平成28年度全国水産試験場長会全国大会の開催にあたり一言ご挨拶をさせていただきます。

本日ご臨席の皆様方におかけましては、水産業の振興を図るため、日頃より水産関係の試験研究及び技術開発の推進にご尽力頂き、この場をお借りして、改めてお礼申し上げます。

昨今の我が国の水産業を取り巻く情勢は、クロマグロやニホンウナギの資源の低迷、公海さんま漁をめぐる動き、ロシア二百海里サケ・マス流し網漁の禁止、調査捕鯨に関する国際的な対応、TTP大筋合意への対応、そして相次ぐ大型台風の被害、震災・放射能災害からの復興など、解決しなくてはならない問題がかつてないほど山積みしています。これらを解決する一助となる、水産分野における試験研究に対する国民の期待は益々高まっております。こうした期待に応えるためには、水産研究・教育機構や各地域の研究機関がお互いに連携し、水産分野における試験研究を強く推進していく必要があります。水産庁といたしましても、現場からのニーズを踏まえ、効率的・効果的に有効な施策を実施できるよう、地域水産試験研究振興協議会やブロック別研究開発推進会議等を通じて、皆様と連携して取り組んでいきたいと考えております。

特に、皆様方のご関心の高い、我が国周辺海域の海洋モニタリングに関しては、他省庁や関係機関との協力関係を築き、業務が円滑に進むよう、情報交換などを積極的に行っていきたいと考えております。

更に、漁業者の理解を得る適切な資源管理を推進していくためには、資源評価の精度向上のための資源調査・研究の充実が必要であると考えており、来年度の概算要求において、増額要求を行っているところであります。

また、次期水産基本計画に向けての議論が7月より開始されました。来年度からのスタートに向け、月1、2回程度議論していく予定です。

東日本大震災の発生から五年八ヶ月が経過いたしました。復興までの道のりは未だ道半ばの状態です。国の復興予算は、今年度から「復興・創生期間」に入りました。水産業関係では、「風評被害の払しょく」、「販路回復」、「福島県の漁業の本格操業の再開への支援」等が取り組むべき課題とされています。水産庁といたしましては、被災地からの声に耳を傾け、早期に復旧・復興を行うための必要な予算を29年度も引き続き要求しているところです。

さらに、放射性物質の調査研究についても、水産研究・教育機構等と連携し、引き続き実施して参ります。

最後になりますが、本日ご臨席の皆様方のご繁栄とご健勝、また、本日の大会が実り多いものとなるよう祈念しまして、私のご挨拶とさせていただきます。

あ い さ つ

国立研究開発法人 水産研究・教育機構 理事 遠藤久

日頃からの皆様方の水産の試験研究開発に関する御努力に感謝申し上げます。今、水産業の現状、それから気候変動等については遠藤会長、保科部長からもご紹介がありましたが、変動する中で、我々の機構もこの4月1日から新しくなりまして、新たな中長期研究期間に入りました。4月1日から水産大学校と統合しまして、以前は水産総合研究センターと申しましたけれども、それが水産研究・教育機構という風に名前も変えまして水産に関する試験研究開発それから人材育成ということを一貫してできる機関になったところでございます。

この4月1日から始まった新たな中長期研究期間、ここでは我々としては研究開発部分につきましては3つの重点課題を設けております。

1つ目は水産資源の持続的な利用という研究開発分野でございますけれども、これはまさしく資源評価をしっかりとやっていくということございまして、そのためには色々な調査研究をしなければいけない、それから温暖化に関する対応もここで研究をしていきたいと思っております。

それから二つ目は非常に広い範囲でございますけれども、水産業の健全な発展と安全な水産物の安定供給、そのための研究開発を行うということございまして、生産から消費まで1つのシステムとして考えまして関連する研究開発を一緒に進めていくということございまして、漁船漁業の話、それから増養殖の話、それから漁場の修復とか職員としての安全性の話とか多種多様なことをこの課題の中でやっていきたいと思っております。

3番目は海洋生態系モニタリングと次世代水産業のための基礎研究ということございましてけれども、ここでは先ほど申し上げました2つの重点的な調査研究の課題の行動化を進めるという意味合いで、技術の高度化、モニタリングの高度化、VD テクニックの開発、AI を用いた技術の活用等々色々な技術の高度化を図っていきたいと思っております。ただ、さらに重要なことは調査研究、研究開発を行った結果を最大に利用していくということだと思っております。研究開発で終わるのではなく、成果を現場の産業あるいは行政にしっかりと活かしていけるようなものにしたいということで我々は考えておりまして、こういったことを最大の目標として頑張っていきたいと思っております次第でございます。

水産研究・教育機構としては、これまで同様都道府県の水産試験場の皆様方と連携してご協力いただきながら水産研究開発の推進に努めていきたいと力いっぱいやっていきたいと思っておりますので、今後ともよろしくお願ひしたいと思っております。

最後に一つ新たなプロジェクトを我が方で進めているものを紹介したいと思います。すでに報道等でご存知の方多いと思ひますけれども、旬プロジェクトというものでございます。資源管理につきましては漁獲を管理するだけではなくて最近では色々なところから消費者側からの水産物に対する理解を深めまして正しい選択をしていくというところから資源の保存管理を図っていくことも必要だろうという話がございます。

このプロジェクトでは日本の持続的水産物を安心して購入していただけるよう、水産資源の水準だけでなく海洋生態系や漁業管理の状態、地域の文化とか社会経済的な状況こういった多くの視点から評価を行って、食品としての栄養とか安全性とともに魚の情報を判りやすく消費者向けに発信していきたいと、検討を進めているということでございます。もともとの話をしますと、東京オリンピックとかパラリンピックの方へ、色々な食材の調達問題があるということがありまして、そういった点でも活用していただいて上手くその計画に合致できるような評価をしていきたいと思っております。評価にあたっては評価基準とか対象魚種の選定とか評価内容の透明性を高めるために色々な外部のレビュー委員会とかも開催しまして今検討を進めていますけれども、今後はパブリックコメントを実施したりして、具体的に進めていきたいと思っております。現在は評価基準の作成を行って、それを外部レビューの委員会にご意見をいただいて、いくつかの魚種について予備的な評価作業を開始したという段階でございますけれども、今後こういった取り組みを進める段階においてパブリックコメント等を通じまして、水産関係の試験研究機関の皆様方にも色々ご意見を伺いながら進めていきたいと思っておりますので色々ご協力をお願いしたいと思っております。

今回の大会が成功裡に終了しますことを祈念しまして私の方からの挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

3) 開催県

あ い さ つ

山梨県農政部理事 西野 孝

山梨県農政部理事の西野でございます。開会に際し、一言ご挨拶申し上げます。全国の水産試験機関の場長の皆さんが集う名誉ある大会を山梨県で開催して頂き感謝申し上げます。

山梨県は暮らしやすさ日本一の県であり、大都市圏の皆さんに、観光や移住の適地

として注目をされている県です。日本一の富士山を筆頭に四方を2～3千メートル級の山々に囲まれ、ミネラルウォーター生産量、日照時間が日本一を誇るなど山紫水明の地であり、またかつては甲斐の国として、武田信玄公をはじめ、名だたる先人たちが活躍した歴史ある地でもあります。

さて、本県農水産業に目を向けますと、やはり担い手対策と水産も含めた農業生産額をいかに増やすかが課題となっているところであります。

ブドウ、モモ、スモモの生産量が日本一、ニジマスの生産も全国3位であるといっても山梨の知名度は低く、「山梨ってどこにあるの?」という消費者に認識してもらう努力を行政として続けております。知事も国内外でのトップセールスを積極的に行っていますが、

水産分野でも甲斐サーモンレッド等の山梨ブランドの魚がございます。こうした魚を食べに山梨を訪問してもらい、山梨県のファンを増やす地産訪消の取り組みを推進していきたいと考えております。

また、近年の大きな話題としましては、富士山の麓にある西湖から70年ぶりにクニマスが発見され、県の水産技術センターが中心となり、幻の魚クニマスの保全と増殖に向け、大学などと連携し精力的な取り組みをしているところであります。

本日は、水産の試験研究のトップの皆様方が水産技術と合わせて研究の方向性や行政への要望なども話し合われるとお聞きしております。

富士山のふもと山梨で、水産資源の維持・増大や生産技術の向上などとともに、いかにたくさんの消費者を引きつけ、水産業や地域振興の発展に結びつけるか熱い議論をしていただき有意義な大会となることを祈念してあいさつと致します。